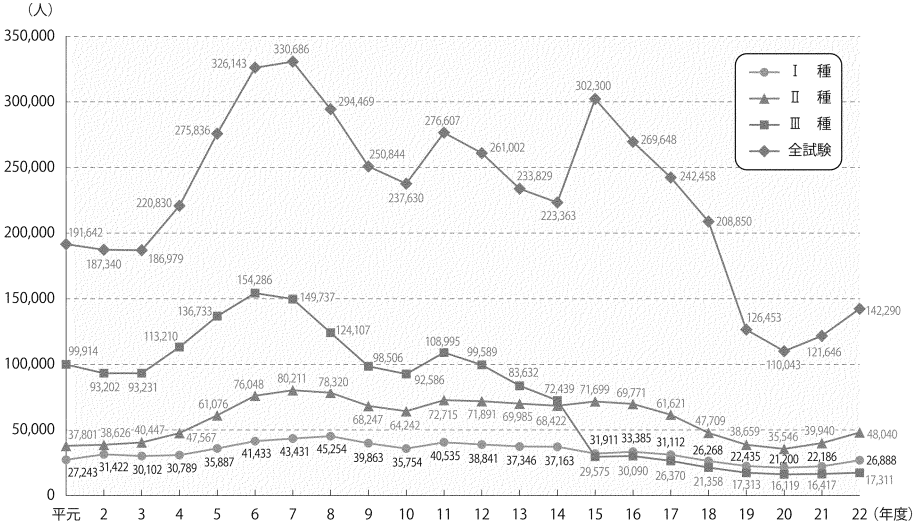
図１－１　国家公務員採用試験申込者数の推移



⑵　試験の種類別の状況

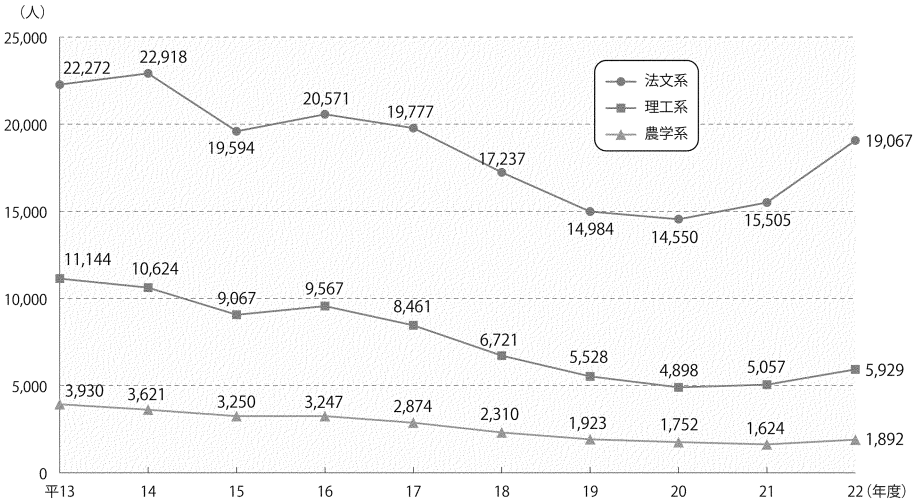
人事院が試験機関として実施するⅠ種試験、Ⅱ種試験及びⅢ種試験における特徴的な事項は、次のとおりである。

ア　Ⅰ種試験

㋐　申込者数及び合格者数は表１－２のとおりで、申込者数は前年度に比べ4,702人（21.2%）増加したが、合格者数は180人（12.0%）減少した。

また、系統別申込者数の推移は図１－２のとおりで、全ての系統で増加した。

図１－２　国家公務員採用Ⅰ種試験の系統別申込者数の推移



㋑　申込者及び合格者を系統別・学歴別にみると、申込者及び合格者のいずれについても、法文系では大学卒業者等（卒業者、在学者、中退者をいう。以下同じ。）が多数を占めているのに対し、理工系では大学院修了者等（修士・博士課程修了者、在学者、中退者をいう。以下同じ。）が多数を占めている。

㋒　女性の申込者数及び合格者数は表１－２のとおりで、申込者数は、前年度に比べ増加し、申込者全体に占める女性の割合は、３年連続で３割を超える状況となっている。また、合格者数は、前年度に比べ若干減少したが、合格者に占める割合では前年度を上回り過去最高となった。

㋓　合格者の国・公・私立別の出身大学（大学院を含む。）数は表１－３のとおりであり、平成22年度は全体で87校であった。

表１－３　国家公務員採用Ⅰ種試験合格者の国・公・私立別出身大学数の推移

（単位：校）

設置者＼年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
国　立	50 (57.5)	57 (57.0)	56 (54.4)	53 (50.5)	53 (54.6)	56 (53.8)	53 (52.5)	55 (53.9)	51 (51.5)	48 (55.2)
公　立	8 (9.2)	9 (9.0)	10 (9.7)	8 (7.6)	9 (9.3)	12 (11.5)	11 (10.9)	16 (15.7)	10 (10.1)	7 (8.0)
私　立	29 (33.3)	34 (34.0)	37 (35.9)	44 (41.9)	35 (36.1)	36 (34.6)	37 (36.6)	31 (30.4)	38 (38.4)	32 (36.8)
計	87 (100.0)	100 (100.0)	103 (100.0)	105 (100.0)	97 (100.0)	104 (100.0)	101 (100.0)	102 (100.0)	99 (100.0)	87 (100.0)

㈱　（　）内は、合格者の出身大学総数に対する割合（%）を示す。

イ　Ⅱ種試験

㋐　申込者数及び合格者数は表１－２でみたように、申込者数は前年度に比べ8,100人(20.3%)増加したが、合格者数は1,123人（21.6%）減少した。

㋑　申込者及び合格者を学歴別にみると、大学卒業者等の占める割合は、申込者、合格者ともに８割を超えており、大学院修了者等の割合は１割台となっている。

㋒　女性の申込者数及び合格者数は表１－２のとおりで、申込者数は前年度に比べ2,114人（16.7%）増加し、申込者全体に占める女性の割合は30.8%で引き続き３割以上を維持している。また、合格者数は、前年度に比べ減少したが、合格者全体に占める割合28.4%は、前年度（29.6%）に次いで過去２番目に高い割合となっている。

㋓　申込者数、合格者数について、国・公・私立別の出身大学（大学院を含む。）をみると、申込者数では私立大学が55.5%（前年度54.3%）、国立大学が34.5%（同34.9%）を占め、合格者数では国立大学が48.5%（同48.8%）、私立大学が42.9%（同41.7%）となっている。

ウ　Ⅲ種試験

㋐　申込者数及び合格者数は表１－２のとおりで、申込者数は前年度に比べ894人（5.4%）増加したが、合格者数は539人（27.8%）減少した。

㋑　学歴の状況についてみると、全体に占める高等学校卒業者等（卒業者、在学者、中退者をいう。）の割合は、申込者で43.9%、合格者で28.2%であり、前年度に比べ申込者数、合格者数ともに減少した。